

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

東北各地では、初雪が観測されるようになり、冬の訪れを感じる季節となりました。今回は、神奈川県の大磯教会が、米川(南三陸)ベースで継続的に行っている「お茶っこ」支援活動と、八木山教会のオリーブの会が、仮設住宅の方と協同で行った芋煮会についてご紹介します。

大磯教会 「お茶っこ」支援活動リレー

～志津川で感じた四季の変化と支援継続の意味～

カトリック大磯教会 篠崎 恭子

なぜか時折、高台の志津川小学校仮設住宅から眺めた南三陸の美しい海が、目に浮かびます。二月に雪の中、子どもたちとかくれんぼをして車の陰に身をひそめ、眺めた冬の海。静かにキラキラ光る水面と瓦礫の残る赤茶けた骨組みだけの防災センターの建物。五月には緑の木々の間から町を眺め、夏には照りつける太陽の下で、遠く音もなく陽炎のように動くダンプカーや大型トラックが行き交う風景が見えました。復興はまだです…。八月にボランティアに参加した時、私に与えられた役割は、二日とも「お茶っこ」でした。

きっと70歳を過ぎている私の身体を気遣ってくださっているのでしょう。一日目は、山間の小さな仮設住宅。テントが張られた外で、涼風に吹かれて楽しい会話が弾みました。二日目は大学生と一緒に志津川小学校の仮設。この日は、住民の方々が夏休み中の子どもたちのために「そうめん流し」の準備をしていたので、そのお手伝いをしました。そうめんとカップゼリーが流されると、子どもたちは大喜び。暑い日差しの中、汗だくになりながらも、皆で満腹になりました。



九月は娘の親友のお母様、廣崎さんとご一緒でした。一日目は念願の瓦礫処理に参加。各地からのボランティア180名と、海辺近くの一見平地に見える田畑に、組ごとに分かれて一列になり、田畑を掘り進みます。10センチ位掘ると、ねっとりとした泥土の中から大きな石ころ、ガラス片、瓦片、ビデオカセット、ビニール片、鉄片などが出てきました。それらを分別してバケツへ入れていきます。午後は、刈り取られた干し草の移動。人の丈の2倍はあるかと思える高さの干し草を積み上げていく作業もなかなかのものでした。炎天下での作業のため、一時間置きに休憩がありました。廣崎さんと若者に負けない頑張り、筋肉の疲労は残りましたが、二人で充実感を味わいました。二日目はいつものように志津川の仮設の「お茶っこ」でした。東京の大学生グループの焼き芋パーティーと重なり、場所移動のハプニングもありましたが、いつもの皆様が来てくださって歓談出来ました。



テレビで台風の被害で壊滅的に田畑を流され、仕事をする気力を失い、立ち上がれないでいた人が、ボランティアの人たちがやって来て、家の片づけを手伝い、田畑の整備をし、作物の植え付けを助けると働く意欲を取り戻した…というお話を見ました。改めて、人はひとりでは生きていけない、人の優しさで変わることがあると再確認しました。老人の私が被災地を何カ月かに一度訪ね、何の役に立っているのかと思うことがありますが、人は人の優しさに触れるだけで力になることもあるのだと分かり、鷺沼教会の支援は、毎週誰かが訪れるリレーの小さな力として、継続に意味があると確信しました。

また、これから新たな問題も出てくるでしょう。八月に志津川の仮設でいつも遊びに来る女の子の姿が見えませんでした。新居に移ったという話でした。今後、仮設を去る方が増す。もう来なくて良いと言われるまで、自分の仕事の合間をつくって出かけようと思います。

みんなの手作り 美味しい芋煮会

八木山オリーブの会 野田 和雄

巨理町旧館の仮設住宅の住民のお一人から芋煮会の提案がありました。

「鍋やコンロ、それからおにぎりはこっちで用意するから、鍋の中身と容器を準備してもらえたら、芋煮会ができるんだけどどう?」「それでは、ゲームもやって楽しみながら多くの人に声をかけましょう!」このような感じで2週間前に準備がスタートしました。芋煮会は、仮設住宅の集会場の前の広場に大鍋を準備して行う事になりました。オリーブの会のご婦人たちは、100人分の芋煮の材料作りやゲームの賞品の準備で大忙しです。



10月9日は雨の予報もありましたが、晴天に恵まれました。集会場の一室では仮設の人たちが集まって、慣れた手つきでおにぎりを握っています。芋煮のいい匂いがする頃になると、様々なおかずや漬物が出てきました。普段、着物作りに参加しない人も鍋の周りに集まって笑顔の輪が広がります。皆で食べると美味しい楽しいと喜ぶ人がいます。

「あんたらいい人だ。皆さんのおかげで生まれて初めてビールを飲んだ。旨い!今度は買って飲むか。」と言うおばあちゃんもいました。

食事の後はビンゴゲームに夢中です。沢山の景品が、ビンゴであがった順から渡されていきます。老眼で数字が見えづらい人には、オリーブの会の人々が、「ホラそろったわよ。ビンゴって言って!」と手助けしながら寄り添いました。

当日の鍋奉行や後片付け、仮設へのハンドマイクでの呼びかけ、ポスター準備等、チームワークある協力のおかげで無事終了しました。

仮設住宅訪問を行うボランティアグループは、今年に入り大幅に減少しています。昨年の芋煮会は別の団体がやっていました。今まで続けていた私たちのところに、様々な行事や催し物の企画が持ち込まれるようになりました。これからも寄り添っていければ良いと思っています。

